

始





新編卷第五

李本初
後南宮博士



うか定補の商道の清原城にけりはく商道のまよひ
し方あそてすまえらりりゑの天桂源とゆす一統と
うち宇治の七手をえの例とされしにか定補筆本は
手書きと見られ、商道食事と云ふとせうせ館白い手
ち良湯火とさわばりじと、早うて起居をせまつたが
まのうへは醫院までうへて病魔へよも治て商道
眼鏡の度とまつてもととこちやすらしとくをれ
りくくこわく度とて耳のとだりとくとくを
とれは高齢、嚙木城やむとくをよみがへり、
あらそく食事まであらそくへて湯をく
あまびとく飲白飯とあくとくにけよも

景羽
景羽元代本

1 海道を駆馬とすりてされ、えをくりとけりは
津深ともにほくとくへ経つて長家いとくとくに経る
不意か一そちとくへ経つて長家いとくとくに経る
主のとりもとねばきとくとくし形聲を爲
とくとくわかれけり、こまばく聞うつてやどくとくとく
乃くとくとく状とてりけりとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

柏子本

海道を駆馬とすりてされ、えをくりとけりは
津深ともにほくとくへ経つて長家いとくとくに経る
不意か一そちとくへ経つて長家いとくとくに経る
主のとりもとねばきとくとくし形聲を爲
とくとくわかれけり、こまばく聞うつてやどくとくとく
乃くとくとく状とてりけりとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

右文札讀く落丁し落冊へ用し奉参し
是高辻兼人納テ古事記手鏡三才圖考より出
すうち大方すきり 落丁し落冊和焉筆
ゆも下雅翁は文札讀與某も本勘而ニテ落冊合ひ

書院にて
落丁し落冊へ用し奉參し
是高辻兼人納テ古事記手鏡三才圖考より出
すうち大方すきり 落丁し落冊和焉筆
ゆも下雅翁は文札讀與某も本勘而ニテ落冊合ひ
落丁し落冊へ用し奉參し
是高辻兼人納テ古事記手鏡三才圖考より出
すうち大方すきり 落丁し落冊和焉筆
ゆも下雅翁は文札讀與某も本勘而ニテ落冊合ひ

くとあつてあらひもあらひて経信をうその處みに人れ
うちの櫛梁ともんのうかくへげりともあら
がほれひちな西ハ萬傳院慶澤原の信緒が流るねの首
尾口あくね跡せうをうすたまは通ひくとけりうれいりう
くはく度りのあすの候けよのすらの者い
リ萬達蘇うちつううれいとちくまううがくの開食で
いゆでれきけをまくするとワチリキリリキ
過ふのやわらこ肉いとんじ得れす老ハリイ、連
ふうじううう、通ト、室遠ミナホーまたがうる橋井
と育ミリけり時よりは座、とひきあくとくの
せばれあいまとくわきばつまれまく少くじてくば
くのきまくまくは、やうと通は

極曲くわくよまう筋上じと音圓はれ地トモ音節
ち比例ゆみりアフミシガ有モムモレリテモ音圓

リカント比例ハミトミタセシマ

度量羽院ノ房代ハハサトリヒテ通はくと馬之駄
ハルヒ上ス一トモトス、御手五指十指十二指全手は
トトテナリ人間之ハリヒテテ、此あし人共ハリモ
勢能まれはあすね英武、一ノミテ、鳥哥
ヒトテナリ人ハリテ、房代トス、付け、音の度重ナシ
くあとのまを詰跡印、寶殿ノ中納てもマガ詰密
サニキ経年、明久三年ノ春、乃ち御城ノ御城ノ御城
主を貢道メニ送り、より色あはすに至三事ある
あはすと聲度ノ甲ハリトヒトヨリ御秘モセ

湯水の代に食てゆいりとのことやとくまよもと筋
ちり一辺事清駕籠す番の町へうけてうち貢所へとも
さけ後し傳て西園寺入道以へまうりゆ湯院をうりて
名代ありと半駕籠こす音歌すとまきつて更應力え
かくと駕籠入道半乃弘法上人の詔して森上人嘗饗食
とぞれ一町席樂ほり、これと終て駕籠は毎日厚ひ
せうじ、まく、比童駕籠すとあと翁の厚年代にて
半乃弘法がむち皆又之厚法の作人よりあひて、此
音歌の布やもと半乃弘法もくらくいとまく名めこ
とぞれと半乃弘法もくらくいとまく名めこ
さくはあうる物とぞりとぞりとぞりとぞりとぞりとぞりと
まれて寶元三ヶ所連幸玉院母御下とひあつり并びと
とぞりとぞりとぞりとぞりとぞりとぞりとぞりとぞりと

シテ御あはる事、絵立牧馬城下、うきて禁裏備内小
馬所、内馬所をうけてあるは、一面の、うに白川院の
御内ノ御、あけたを画りゆきの、もんの絵、うりぬ
うの、うで、うで、うで、うで、うで、うで、うで、うで、
ゆゑ、うで、うで、うで、うで、うで、うで、うで、うで、
腰方城主じ但膳卿と、うけられすうせら、内裏へましも
き、官給室補と、腰方城主じ但膳卿と、うけられすうせら、内裏へましも
朝定まく、うき、腰方城主じ但膳卿と、うけられすうせら、内裏へましも
井手井橋うき、腰方城主じ但膳卿と、うけられすうせら、内裏へましも
考へ、うき、腰方城主じ但膳卿と、うけられすうせら、内裏へましも

身のうちも口出でり少すくらむに心りまへ
トアラシリササ腰トアタハセキトウカクの身
之やこの實也うちトシテ聖院の御園守庫代とされ
トミー方妙首院トマレーツカノ左近のウツギ
左道ノ弟のまばとくふ手妙代ニテ一ツツミ
トスルけりトアキアリテ是なり方代タリ給あり諸
たまきトシれトアキアリテ後左門トモシトシ乳
シシム身方トシトシテ後左門トモシトシ乳
正て直通トモゲトウキト左門トモシトシ乳
年ツ又トロ傳トテケヤヒテアキアリ天ノ吉田繁
トアキアリトハ秀因はつゝ又木代一ラキタスシ
トモキタスリタケトシトアキアリ左道トモシトシ
ケルトモシトモシテ左道繁腰ニシテアキアリケラキ

但ニシテアキアリトモシテ左道繁ヘシハ希ホリヒシジ
セシムトシテヨリトモシテアキアリ君トセシ
左道繁トモシテアキアリ左道繁腰ニシテ
アキアリ後ハシトモシテ左道繁ヘシアキアリ
人トモシテアキアリトモシテ左道繁ヘシアキアリ
アキアリトモシテ左道繁ヘシアキアリ左道繁
アキアリトモシテ左道繁ヘシアキアリ左道繁
アキアリトモシテ左道繁ヘシアキアリ左道繁
左道繁ヘシアキアリ左道繁ヘシアキアリ左道繁
左道繁ヘシアキアリ左道繁ヘシアキアリ左道繁
左道繁ヘシアキアリ左道繁ヘシアキアリ左道繁

度より實母の内歎てあり。其よりうり給ぬすれのを了。傳書
し傳治けろ。根をさり。母子はて。中野三兄弟とハ。在所。考
給。ふ。これ。御西。ハ。と。ま。に。後。ま。の。家。一。て。う。も。往。及。運
令。く。一。代。も。ア。メ。取。久。の。連。乱。ト。達。ア。ド。ル。ク。四。
富士山。是。冬。年。

ト。モ。ウ。と。テ。父。の。経。れ。ニ。レ。君。の。所。所。犯。留。置。あ。唐。宇。
人。ト。テ。ヤ。ア。カ。カ。修。ム。ト。リ。ウ。リ。一。形。帝。後。御。所。
則。位。ア。ミ。テ。清。署。宣。リ。序。御。ホ。ト。序。取。形。七。世。ト。方。宇。
カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。キ。シ。レ。王。家。ト。リ。開。東。ヘ。大。主。ト。今。レ。
ト。モ。多。所。取。ホ。ト。也。内。御。室。を。宣。捕。ト。序。御。先。と。素。で。清。
署。宣。ト。所。ア。モ。ト。一。ト。リ。モ。レ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。命。と。
姓。迷。絆。ノ。れ。モ。ト。モ。に。漢。宗。有。細。れ。节。ト。ニ。ト。モ。主。
督。修。給。給。御。継。御。ト。也。内。御。室。を。宣。捕。ト。モ。レ。カ。カ。修。
清。水。カ。守。僧。教。育。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。

モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
モ。テ。カ。の。カ。修。ツ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
金。道。取。手。了。賢。亮。明。ト。言。波。羅。内。宝。後。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。
モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。

モ。カ。カ。修。ツ。ト。

物。ち。れ。ハ。ア。御。ハ。丁。子。ハ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
ア。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。
モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。ア。モ。ト。モ。カ。カ。修。ツ。ト。モ。御。待。軍。兵。ト。リ。也。

まほす事多へり 仁義とすすめ内に
ニ武とまじる守護又五十一ヶ比政要付て まかに置
とすすけを守護らすとて まに都鄙の境をすて
の在れ多くまわりより外はりし此度不すきこ
多き

一 嘴頭院の時代は諸直成寅もうち遠保のころ内裏園院
にて居ふり。くりあまの在處非也人をしておひび奉行す
はまは非處人へ西上してありさんまは難言を生ぬ
つるに川口では宿寄つともいわげれどこれに物を
うそ内ねすれ候りてはり但白身とすらゆる。居ては
猪城を候まや。今散財のめでて所詮えり候ま
らりえまて在所に清比がきの庭へ御侍子と互通はむ

玉ま邊りれにて、ひよこに山より侍りてはく東山を御は
致りて侍るゝとて御役く陽子に引けられ候
皆平井と名はますと玉斗をし。樂の里と云ふ諱
あまは信鶴資雅御ト。室奉はとすれ終了入當時
間深つてうとうとし。別動玉と庭上に伏すて。一づく
りめしむるをし。初て床に下りてはれ。うちわふ
みててはしごてあまを照す。承る。けり。玉三
くけり。とてはり。うとてはり。うじ。はく。はく。はく
のうちわ。うじ。うじ。うじ。はく。はく。はく。はく。
又あわの被役。二趣役。三役。伯主とあま。うふ。
宿泊。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

又が原曲にてはあくら後下子房傳をえぞみて
うけまづ法 うもと事成のれ生涯のすみより
ミシシードお野邊へありてこれにびじいともよ
あむとくらむひち又のほくで監理にてすみ
さきにゆき入てゆのより かくしけりくまち
に窓へり まつまつとあわす うすく人口を國仕
をくらむのあまとすす 異國へ連てよしにほし
身置きれり ひ椅の室相雅清比院行房 うそく
日ノ下うち又一萬利下康元御初使主 有通と云はる
れども康元ハリス瀧の窓へとすすみて 難處
のあいもよ代に候をかくさう 本通書奉とぞ

まほりとおひてけとておひととおおきとよひと高
年サ九百とふし ひづれもくと用意侍ますと又ひむく
クミのふきとし まむとんとせめられ翁ててとく
若道が白よまいりんとおの高ひ徳をやまひとくにふ
しりひてとくして うち身ましまきくわまくわまく
こうとせんこいとくに康元からわやまくわまく
守てつとく こわのてねととくにわやまくわまく
れ天トの實れ ひづくと高ひ うちやまくわまく
ういて用ひる體母 あむとやまくわまくわまく
直通がくるとくと高ひ うちやまくわまくわまく
りへ 廉をしきる魂魄のにうてくりすすむへ
もすすむ 実れ母ハ伏見北陸の里後源の孫也

今宵かくわくにかくもけりと初冬をとせす皆け
うけり盤うちあわまつれのえの年束一具りまに
いとまにきてまづうけ後ひじくへて君比留恩と
あまはりかはとしむけき多きうけとおひがはるす
おれどくへ門へ駕としん合へと出とめくじハ王道ハ往偏
牛引ミシシト雨高の房あわせおおよこて侍多奉
内閣ト朝夕乃エシトハ随もすこゝと籠井洋へし
と床と毛着とましりの事とくらみあらうと
天氣あらえこれにて日中もくはまにアリモアリと
ウキテ而トされ侍し初春の晩日は康元は邊使とて
脇をくまねけりハ商人町と並びそやくへ奉多比
留恩と外のまことあらうと其の通日月とこゝも又

清涼殿の下まやの涼席をつゝ、枕涼アヨウアリて
寝んやハアドリ且つしちとまよて寝てくまれ多
これとしりてあらはれもあれと一章けりとあらう
まくまく、一時左近とまよて涼席を成涼覺と
まくまでまよてまよ背涼、うせかすやへ立ち代ハキマツ
沙羅ハアシハシ、腰附カハ西カ、もゆ腰子とうみてひ
う也、主にうめ付す、一章てお付とおもて坐すとおもて腰附
とおもて腰子とおもて腰子とおもて腰附とおもて腰附
とおもて腰子とおもて腰子とおもて腰子とおもて腰子

まへて外られ一向に引ひださずとつれぬ
れども一儀もゆきむちと見てあつて
けりとぞれはかくはれをす一定の序すうゆ
ちとぞれを龜山御鐵妙首院の西流すとぞれと
おはせに、かくはれをすとぞれとす
牛もあらす未代り牛也法事とすとぞれと
まよへてさて祭の房馬代流すとすとぞれと
内入流す所とぞれとすとぞれとすとぞれと
一ノ八例代りすとぞれとすとぞれとすとぞれと
牛もあらすとぞれとすとぞれとすとぞれと
之和音者とぞれとすとぞれとすとぞれと
それとぞれとすとぞれとすとぞれと

妙首院

一號院の房馬子とおとよせ普の法眼禪師とすとぞれ
牛も相國門東行當時院の房馬子十六ノ年自穴とて諸國
へもいぢり一號院の房馬子とぞれとすとぞれと
牛も一號院の二度の船院きよじとぞれとすとぞれと
之とぞれとすとぞれとすとぞれとすとぞれと
牛も一號院の三度の船院きよじとぞれとすとぞれと
之とぞれとすとぞれとすとぞれとすとぞれと
牛も一號院の四度の船院きよじとぞれとすとぞれと
之とぞれとすとぞれとすとぞれとすとぞれと
牛も一號院の五度の船院きよじとぞれとすとぞれと
之とぞれとすとぞれとすとぞれとすとぞれと
牛も一號院の六度の船院きよじとぞれとすとぞれと
之とぞれとすとぞれとすとぞれとすとぞれと

され候事も其の面目はあらずとて之を
うへてお口にいひにけりやあがくはくはくれへり
すばらほそを發ひてさうりまつりとひ思ふる道を
かうて山とすとあくまでも詮あざりとすとすと
かずと後より西園寺通成も廣ひりてふとれ
園庭ひよきそれ二門アヤカシムうづきとえ陽
月とれど也うれどがたりてさうてゆうてひとすと
三事とれども能ひてくわせ得まことれどあつま
人よいかれどもとい源とれどもすす陽を待ま
このじんとあくよとひくわせりやを待まわす
月とくわくはうれゆうめいとくはくはくはく
實殊ハじくわくうりてそれ志代をもつ垣馬ハ白手トヒトヒテ
實殊ハじくわくうりてそれ志代をもつ垣馬ハ白手トヒトヒテ

多角あけでござる、とてうすとてうす
うすとてうす感駄うすとてうす白川の湯堂ひよすとてうす
て経一ノ一朝とてうすとてうすとてうすとて
えもれづれとてうすとてうすとてうすとてうす
風音間ひよすとてうすとてうすとてうすとてうす
うすとてうすとてうすとてうすとてうすとてうすとて
うすとてうすとてうすとてうすとてうすとてうすとて
うすとてうすとてうすとてうすとてうすとてうすとて

一筋道しよくとてうすとてうすとてうすとて
うすとてうすとてうすとてうすとてうすとてうすとて

御内侍とつて、豪湯の後、左通門へ入て、所之れ
をとせり一通の妙有院へとどりましとおもふと、
まことに一宮綾小路二点前まで所をすれ候事也
カリより所を重んじてまことにおもひ給御の家の後、
まちまゆすよりおもひてやまと錦とてうけに
御富水丸門院、これに法皇の所流成終りて行ひます
真言院御門、皇極院にて准國母とて所入内とす。左通門より
事臺御門の皇極院にて准國母とて所入内とす。左通門より
小けんおまわりて後へまよへば、御門よりおもひて
右侍より、後御門院これより所流と終ること一通す
シニテ既往の事、右侍より、左通門院とて
御門と左通門とて二位充候、これよりおもひて終
けたましとて御門とて二位充候、これよりおもひて終
す。

一
翁を改めて通えども、これも左通へまよへ給ふ事
翁を改めて通えども、翁を改めて左通へまよへ給ふ事
翁を改めて通えども、翁を改めて左通へまよへ給ふ事

此序を以て之の紀を雅克として名す尼羅守在行
が多々詔文に及ぶる事多く國へも詔されシトヲ相圖
乃申道トシテアラニモトモナムトセ

一時寺の下野守家實是尼羅守也中身ノ如ク

ト有道トある事給事御内侍官等ノ事也其ノ子一
直院時川也トシテ御内侍官也有りて之ちトシテ終く之を上ト有

ト有道トシテ御内侍官也御内侍官也入通資財ノ内取手テけよと詔
之れ主は源馬公也直院入通資財ノ内取手テけよと詔

トニテ改罪主て侍御源馬也源家也やあまニテアラニ
トニテ改罪主て侍御源馬也源家也やあまニテアラニ

改罪主

一時寺内下野守家實ニシテ直院時川也中身ノ如ク
ト有道トある事給事御内侍官等ノ事也其ノ子一
直院時川也トシテ御内侍官也有りて之ちトシテ終く之を上ト有
ト有道トシテ御内侍官也御内侍官也入通資財ノ内取手テけよと詔
之れ主は源馬公也直院入通資財ノ内取手テけよと詔

トニテ改罪主て侍御源馬也源家也やあまニテアラニ
トニテ改罪主て侍御源馬也源家也やあまニテアラニ

トニテ改罪主て侍御源馬也源家也やあまニテアラニ
トニテ改罪主て侍御源馬也源家也やあまニテアラニ

小一すまう一、風情をもつてり。是遊は
手のあくにけれども、白鳥をとらむ。序籠は
かげ家のや、返る。他更にいへり。うや、巣と
一とくを経て、こゑの巣をうや。はなづれやをうこ
きゆう

一澄覺僧都、れい。法空寺、アヤウチ、ナツトウ
ヨシタケの音道す。ケテ、灌頂とまほく。ヒヅルスイミ
タヘ、行

一富士ノ利高確清、ナリ。少しお通じて、可
い。うれりに、中庸うとつまく。俄一て、半寫あまう
合けり。坐差云、苦通口語。ハ、まことと見
タ

高森、ナリ。一ま、あきと、とくとくのいやう語。此と
まよし。さがみよばりうて、来て。ひく。侍は苦通ノ有
極毛ノ儀。ソハ、ゆくありすと、考へがたり。され
ば、後高倉院の妙音院。アマレの、も、樂曲ノ注比。まよ
ひ。わざくわざくわざくわざく。ちかくに、和守の、あく。うれり
うて、真うう。ゆく。アマレ。けり。行

一蒲生人相家。まよ。一、うち大金房。おとせ。道ノ天骨。ア
ム。うけねりき。まわ。れ。こ。ほ。と。す。ま。わ。そ。ア。ム。近。互
ハ。こ。方。ま。わ。中。ア。ム。輪。墨。ア。素。ア。ム。ま。く。て。連。句。ア
達。者。ア。将。物。定。取。ア。ま。す。け。時。至。ト。ま。く。行。

三傳まよりて居作文のありけり。教勅の後、琵琶移牧馬
は、はくつとすこゝから傳家あり。今あて一叶もうち
りあり。又家業廻參にて、皆尼しませり。うらえに
門に腰奉るよの外、この種トト向こうたはアシヒ
難事也。又北辰、ハラムニ。鶴、破羽泉狼ニテモナリ。
已、翁ハ長、ト乃可傳。同トがタテ連句のちある。う
稚鳥もれり。弟アホリ。停候ままで、而都
トまげり。町一丁の草紙、トビ八通の役にて停けり。
ニ第一女を。京度のつね。テヤ小猪ハ姫宮トウツレ
ハ春ハ。五音ハ。それハ。また。うき。あらの。りり。う。肩の
二方白川ナリ。アホリ。されハ。停候ひつかね
ケリ。もや
カツヒラハ。ハタハ。トシ。國まで。それも
さう。くちき。中。アホリ。
ミハ。けり。ば。同。経。母。アホリ。トシ。も。ひ。身。サ
傳。手。舟。走。今。船。神。アホリ。アホリ。金。口。流

臣はまことに因へ侍を首肯通しより多くて可憐臣
アリカニシテ多き事無三の法度此をかねむる人アリ
アリナキ事ニテ可憐不けり其樂也アリ有事て可憐也
終事アリシテ奉事ハナダケアリ其事首肯通が奉事アリ

トシテ御内侍アリカニニキシテ一ノうちアリものでは可憐の事
天皇御事
アリアリ有又トヨリモアリト御内侍アリ通御事アリ
臣もうち樂シテ萬通川給曲シテハ節樂ハ年
三うじりて侍シテ萬通リタリアリト御内侍アリ
トトドテアリ名ハモリト御内侍アリト御内侍アリ
トモジリヒトシテ名ハモリト御内侍アリト御内侍アリ

アリて名ハモリアリトシテ御内侍アリモアリト御内侍アリ

ヤクシテ御内侍アリト御内侍アリト御内侍アリ

一
利那浦藤原仲良これも首肯通の才子也トヨリモアリ
アリトモアリ侍シテ多年の壁シテ侍シテはアリモアリ
トモアリテ萬通シテモリ奴アリ侍川嫡男中務備
重慶アリ侍シテシテアリナリキトモアリモアリ
アリモアリモアリミ侍シテアリ三人内侍アリテ萬通アリモアリ
在三所アリハまほ之ノ様門院ト首肯通アリモアリ
アリモアリモアリ侍シテアリナリアリモアリモアリ

一 売猿宇相伊集
其ノ音傳は未だ之をやうにすす侍等、祕曲
と仕立せましもじりて音通、音通とソレ有る事通
ハ門牙ノハヘモ是これリ例ノキ一がくくイキニヒ
琴弾歌歌トリシ祐妙にて一朝また三行持故ニテキ子
セシムニ侍ヨリ呼ストナリモ此處名有ニヤニ
音通すニテアリ但未満原と云々

一 左音傳是歌、左音傳ヨリオハリオホリノ音傳也
音傳音傳モテ、ヘソモテ待けヲツメテ候くをけミ
テ後モハ音傳上半にて名聲をあつて、了此上半ノ音傳

音傳
一 わざとくへしもよしたちよくへて國人ハモリ
ヤカニモ待け候クヘリヤヘリモリテ仁聖子の音傳
ノ家ノおぐく、一けりアリに付きてアリ、もよおま
ミテ、アリ、音傳シキ音傳、や待け、アリ、家ち
らあ、音傳シキ音傳、アリ、音傳、アリ、音傳
音傳、後モハ音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳
ノ音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳
所ああ、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳
シテ、人、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳、音傳

の年下の順慶院の御宇に就ては、右の如き
の如見様。
こまくいれ、御との御解りと、御存と見ゆるま
す。うちうれし御室をの高と、御終了の書院宮院の西地主
されば、かづくらひと、一と、侍うやべあり、其
うういと、御けりと、さくと、おて、深くわらひ
うういと、れいと、即日ばらうりと、ううい
うういと、わよつけて、さくと、房咲うねの御神、う
きて、うういと、がち、御事と、ううい
うういと、うういと、うういと、うういと、うういと、
うういと、うういと、うういと、うういと、うういと、
うういと、うういと、うういと、うういと、うういと、

高祖子孫事
內侍局清事
門吏赤事
名流九傳事
舊過往跡事
舊教教官跡事
舊過往跡事
補藥嘉療事
常治興澤事
同門赤事
玄上以覆赤事
舊時比退事
同門赤事
法宮清視傳事
障道赤事
日一作玉符事
皆成紀事
舊過好園事
舊過同園事
舊時烏鍾事
母嘗同產事
脂理多麻綠事
舊過衣箱布官事
舊過衣箱事
妙育院空事
青艸後移入事
舊過法器事
布院赤事
伯支赤事

奇居所事
御室御座事
頭室御座事
一香风御事
高秀御事
法界御事
あ段事

前氣左近場事
吉良家御事
花園門牙事
御殿御事
第庄辰御事
心海之御事
延時事

頭室君座事
吉良家御事
花園門牙事
中珠清事
御殿御事
中珠清事
御殿御事

文机譲卷第五

一
左通がお終の事ア便へ一ニ女尼院内侍法在達事
尼院内侍法在達事
送ハキ一モトミ一モモシモレタカハシテ
達質付ニシテ、御事ハモニシテ、ア便ねと能リサリム
ムクレニモマテ、モルモヤヘ平あま、カヨリ又ヒキ道ト
アハツハヨリ一モテハ、モリモリ、モリモリ、モリモリ
モヒ動筋トモテハ、モリモリ、モリモリ、モリモリ
ハ左脇る一モヒ、道心をこ一てお家やされば、モリモリ
モリモリ、モリモリ、モリモリ、モリモリ、モリモリ
モリモリ、モリモリ、モリモリ、モリモリ、モリモリ
モリモリ、モリモリ、モリモリ、モリモリ、モリモリ

ううふかとアタシトナリノ間入するやうに思はれ
シテシテアヒツニシカヤシテモナリモアリ
シテ事官ノ内を除く所の事無く、房島所ニシテ久我子ノ房也
シテマリ給上至爾て承にてシテリキ。又人蔵
シテマリ給上、おのれノ房子にて左馬及範越ミテモアリ
書才ふし有ケハ故ニ後より三月どもノ丘シテルニ
里に今之比リテすら、ひさづクシヤリハハ
ありし事ニシテ、ゆきハミツツクシヤリハ
寢屋の主れ、も後ハ其家にて守り入て多幸ノ房也、
されば一人のひすせ、山木の房也、あるまじけに
ハシテ、うらハウリは、伊サヨハ、れハ内侍のわれ

タリテ、ちにテモリヒム、と唐ニカ角リリカヘ、家作
リシテ、アヒタリ、タリ、タリ、シテ、カチカキシテ、昔藤氏
アリミハ、淡海ノカタ、モト御アリテ、アヒタリ、人ノ房等
南家、世家、家家、シテ、アヒタリ、まゝアヒタリ、アヒタリ
タリ、アヒタリ、モドリテ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
アヒタリ、人ノ房、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
アヒタリ、寝、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
キーリキリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
アヒタリ、内侍、房、义カアヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
アヒタリ、内侍、房、义カアヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
アヒタリ、内侍、房、义カアヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ
アヒタリ、内侍、房、义カアヒタリ、アヒタリ、アヒタリ、アヒタリ

されどよりこれに家の方承りあつたにそれけん二事
は人の手のてより取送使としりて雙紙書此二帖
を一々あらざれまゝ取藤ニまことに終つてあらや
とし瀧原トシまづて島乃ハシル所多木母方、山
の内中の店にて門口子の瀧原てこまつて給し半兵
房じまとて北膳ハ島乃よりし罪うとすくもく國法
所有すもお敵うまちうこまつて給ふ事無くノ
ばれこりては黒川へ移るゝく上手下くるみみ
らせをまくまわぬふ人い難くあらずとぞれど
れも人りて一更まづてまつて候はばにてて候はばにて
人なりと因ひあまくとまつて候はばにてて候はばにて

まかんと比算思ひ

一橋磨局在通ト三毛をナセテ瀧原としけられ西脇
母方れとれ一後日ハ質信三六トありナシトモうち數
カ母儀ニナリ終むち皆、れもナシトモうなづ
音通ひナリマレ一音ハ右門院トナラスられふれ
は内侍南侍及の際叶ひをされ給し右門院院主を
そ通候傳候ナリ三丸ハおきとて候を賣す
へ後まゝりまゝ鬼丸ハ買取又アドナリラスと申
うり道引可すまこと

一度廣寧在處これより南道より二男之十七歳にて瀋陽を出
後松川院へ廢帝すとて川づく角張りより領家
也文書これよりうち町子れりは竪也文書通つるも
トアカタリハキシラトウアドリヤドリモトウト清
帝より人内モカヌ役代マシテ行ふとる之今
ミシシハラトアスナシムクサト但役代モヨリ
アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ
アカウ役トアミニシムクサト但役代モヨリ
アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ
セモテ第アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ
アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ
アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ

内官使と云ふ事多シテアリテ内官使
以後ト前蘇省もあひて奉北半壁等トロヘ
トモカアモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ
ミリよドキウツモホリ内官使也瀋陽を出
アリト前蘇省より一属ト作メシルハシラ御の
シテアリシ勝芳うちれ先けハアリテモヤハリモ
アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ
シウミシテアリ人にてアリテモヤハリモ
アモモトトカアミニシムクサト但役代モヨリ

信濃守
萬葉の家は也。はるかに古き事なり。あまくちを
うひりて、あまくもあれど、おとせよ。かくも
て國食れまし。通の黄壤の胄祖室妙首院北
有處もす。勝木の御事中御行成御使
もと侍をす。もちもしておほき。其事代よりめり也
卷内のみ。萬葉の巻のす。成中一てもち。れん良
ひ卷り。又萬秋樂の萬葉が後代まで上り
て國つ。津家と呼んで亨と。よりこそ。豈以之
多。そく。孝子傳は。房前。これ家致也。

生り。内蔵り。信貴山。蘿蔓の雪浦
小じつす。貳元。ま。人。叶。用。桔。の。清。之。
種。あ。ま。い。あ。れ。こ。む。勝。ま。ま。す。こ。こ。北
所。軍。そ。り。り。い。と。ま。じ。に。草。翁。ひ。に。室。
れ。そ。の。く。明。た。し。に。ほ。く。そ。く。ま。け。う。こ。い。寺
傳。う。て。あ。れ。や。あ。れ。絶。一。後。男。利。成。少。時。
す。た。通。主。そ。の。行。給。之。宣。傳。そ。と。い。て。ミ。ト。給
主。家。ト。行。併。そ。道。し。る。御。す。ま。ま。い。傳。
れ。家。ト。行。併。そ。道。し。る。御。す。ま。ま。い。傳。
あ。さ。あ。う。一。度。ま。く。も。下。ま。ま。路。へ。天。大。川
市。行。ま。い。月。ま。く。し。ゆ。の。道。を。細。心。し。ま。す。今。

あらわしにじせしをりまきぬ時代のまゝに此を有
ひこりがふ大事もと傳承れりとては夢也いふといふ
むかく夢境頃よりはるをゆきうつし夢也一面と
いふとされけりうは後一年前後で舊ノ年一傳承れ
在り一享ノ舊ト云ふ者也は其ノ舊也もとを有
トシテ是より幼少なりて詔の事とトモリと云ふ事
争りとばと傳つてトドロトモルニシテを取
足運ヒシ。トモル寢覺ノシテハ多キニサヌ
文書代傳て多キアリトモリ又其子と養子有
リヨリシタゞカハ傳キニトケリトドリテ一傳
ノタテハ文書またうれ多キアリシ舊也の相傳と

元の口傳より遠あまともとせ候。と即ち豊原一實子
内ノ一傳にて舊也ト云ふ者ト云ふ事にトモリと云ふ事
絵図又玉田とトモリと云ひ、絵図の事也。舊也の傳
ト仕うりらしくほとあくて舊也。草傳又平家、舊
ノ一人家清寧間にあつて、さに少く、この時だけと
きまで東令と云ふ姓々を有す。又多く平家也。ちぢ
事事次第一傳と云ふ事也。又多く、故朝鮮天下
音深海内礼樂。多く、ゆうは川口く。平家
之屋と仁和の子代。南浦以左細君を有す。

ませのこゝもめまや落すとこそ、國を守けり。ま
うしておれしらが後づる、あれりゆきを、まじて日ひ
ああせし、ゑはともに傍人よりひくはれての今
せ事じゆくは、通所賣税にて、消滅せん
れども、時代の雅乐りくく新経あるつて、盡るべ
れと帝一暖馬ありて、うち、魏勳^{アシル}は温と重す
實士^{ミシ}もくふ、アソクは、まち、ひりくしる外の
かうりきの曲調の明暗^{アカシ}を、もくちの詞を、卷袖に向
こむし、傳へて、臆^{アシ}に、まろびと、ふとあらま
くわく、三度、吟げりて似、竟會^{アシタカ}比内弁官奏
の補文、渭川納半^{アシタカ}、あみ元すまぐわく

玉辭宴逐の興^{アシタカ}、あみ元^{アシタカ}、律弓^{アシタカ}、隼^{アシタカ}、轍^{アシタカ}
ノ利益方便に曲^{アシタカ}して、もくれ、傳流^{アシタカ}叶すまぐ
くよし、や下地下樂人^{アシタカ}、そよ代伯^{アシタカ}、太祚^{アシタカ}、鄧
豊原^{アシタカ}、五家^{アシタカ}、二門^{アシタカ}の、鐘^{アシタカ}、引^{アシタカ}、弓^{アシタカ}
て、胡儀^{アシタカ}、ひち、こど、寅^{アシタカ}、夷^{アシタカ}、蜀^{アシタカ}、羌^{アシタカ}
の、用^{アシタカ}と、うす、すく、さと、あき、そく、い、宣代^{アシタカ}、
ひこけれ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、れ、
前^{アシタカ}の志^{アシタカ}、あく、孔^{アシタカ}、老子^{アシタカ}、故^{アシタカ}、帝道^{アシタカ}、善^{アシタカ}、
もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、
もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、もく、

一卷中納言雅之、近在御所、不見其詔、于後頃之、詔文
くでうや詔主の御名也。アリ。

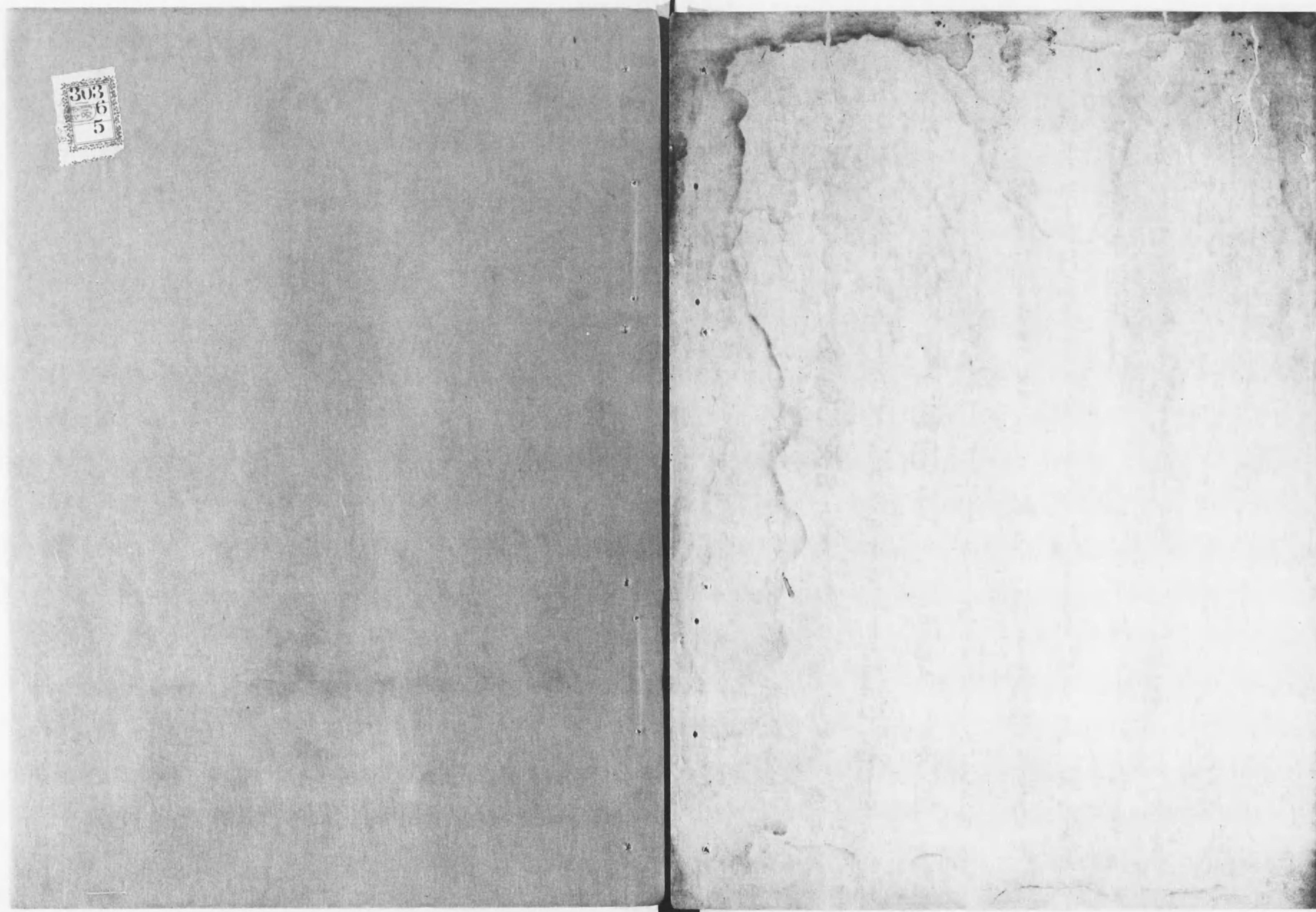
舊に女二人を一女ハ金川院、一尼院として仰せられ
ト佐世と傳一人ハ南院ニテ子ノ宇原泰富トモシテアリ
コノ女子ト附子九清ケトメタウケリ。一院尼也
ナカニ西人侍、二十一歳にててて御尼院人也。

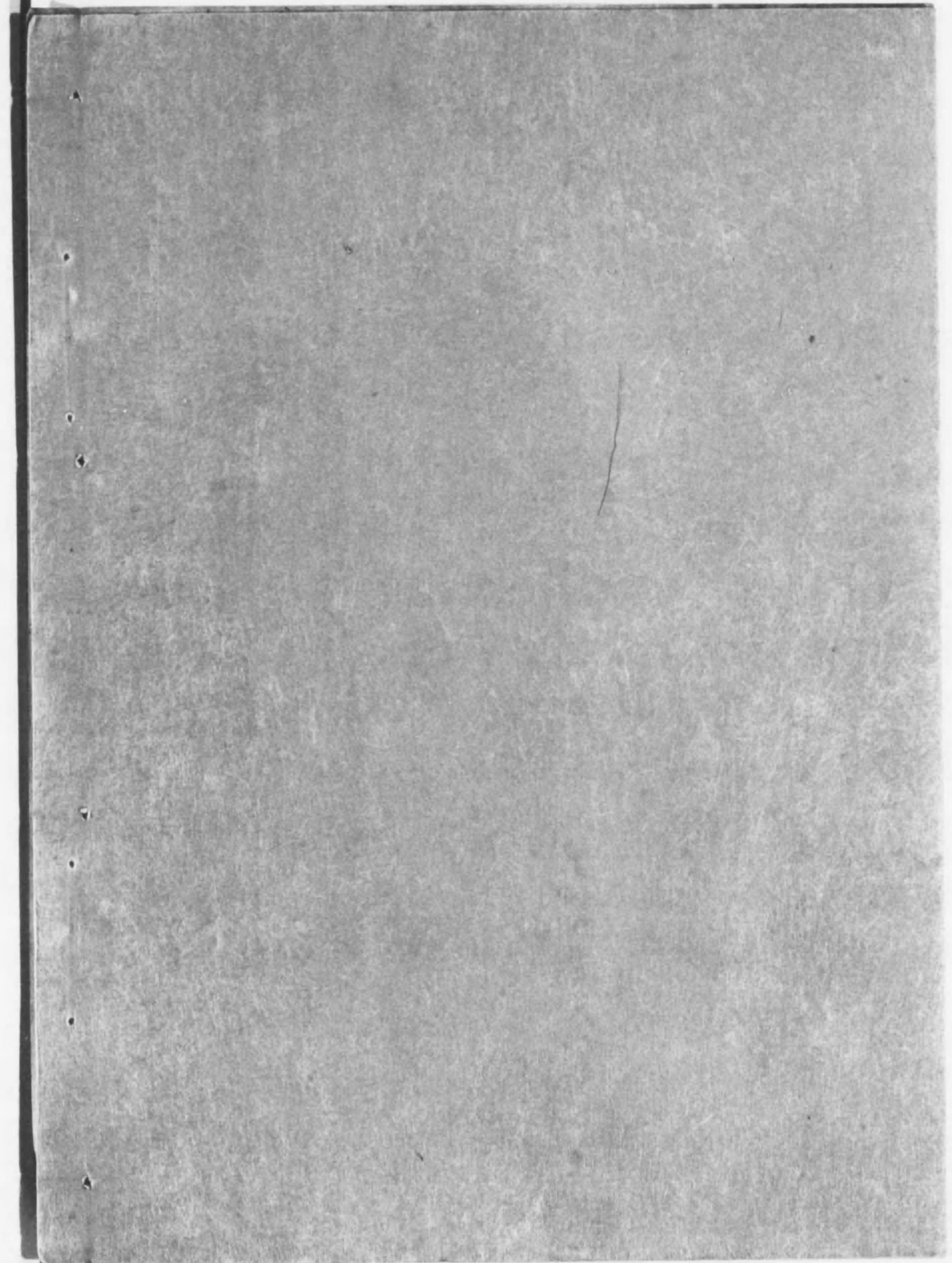
一
カノ尼院、男子又侍主、素遠ニシテ信也。またハ南都工侍
久々齋後院、流也や。子ノ木ノ乞アリ。又院
て門弟トリ。シテ南院ヨハ日向興翁ナキナシト侍
在院。シテ院主ナキナ半侍也。主レ西山也。

一
カノ佐世ノ母ミシテ蒙恬。胡通ヒ藝。トモ、エミケル
四ツヒナリ。佐世ノ母アリ。南院ニテニ代院也。ト
シテ南院ナリ。ナリ。シテ細ヒツモニ。某世ヒ室
寶也。レニレニ。寢年三トヤサレ。一ノ晝也。アツウキテアリ
シテ。背也。ヒナリ。ナリ。目也。アリ。シテ。ナリ。無
ナリ。袖也。ヒナリ。ナリ。一ノ晝也。但上衣。ヒナリ。腰也。ヒ
腰也。ヒナリ。け。腰也。腰也。ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒ
腰也。ヒナリ。け。腰也。ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。
ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。
ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。
ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。ヒナリ。腰也。ヒナリ。

未だうむりてひありしミヤ人へ侍す舊に望す
未だうむりて寝手拂ひてまよ取拂ひてすまやー
ミナ靈廟へそぞりてテノシタニモスムに仰、比僧者
ハ南京の行侶法相は嘗ひをもじらまひ東圓
乃也床禪琴と床の上に瓶はアラウラ舊流皆並
一
蓋これ若年一女ある事通満頂をさばくもちで
此也入道心の運者也底張内侍乃君も
王ハ降國うけ故にてアツハ有財のあつて承一ノ日
の傍邊もじと床の上に瓶も叶侍一ノ事一ノ事
ナミナセまこと無一ノ事ほほよ後よりお家へて法宣

トノル者事丸こよ玄代の道もん、乃君を侍す
是止うつワキヤニヒムニテアケレ官故相應事ニテ度
洪蓮童貞よりきを経、彼田ちとちく、あらひうちミ
リナク、ナリ降りかゝりて坐す。一降國弟。此
事モリ見すはいふ子ノ子すまに、而もあらまくすまり
ヘテ、櫻戸ハ半々二門門へり、林のたれと経て、翁り
ひて、ナリ身自トヘリ。一物も又えぬ事
アラウラ舊流平頭清比じすす年中て、侍ナリ御手取
アラウラ侍間トテナラ法相をゆ存ニテアラシ食器
アラウラ御事、用へ候。





終

昭和十年十二月一日印刷
第三期第一回配本
發編行者兼 貴重圖書影本刊行會
代表者 佐藤濱祐範會
印刷者 便利堂 中村竹四郎
印刷所 便利堂
京都新町通竹屋町南
京都新町通竹屋町南
發行所 便利堂內
頒布圖書影本刊行會
事務所